

Japan Association of Synthetic Anthropology

# 総合人間学会

Newsletter 第 51 号 2025 年 1 月 23 日発行

発行人：古沢広祐

事務局：〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部 熊坂元大研究室

電話：088-656-7150 (直通)

E-mail：contact@synthetic-anthropology.org

## 【目次】

I. 第 19 回大会概要	p.1
II. 理事会・運営委員会報告	p. 4
III. その他、ご案内	p. 8
IV. 事務局からのお知らせ	p. 9

## I. 第 19 回大会概要

### 1. 大会日程および開催方法についてのご案内

運営委員会・理事会とシンポジウム準備会の議論を経て、第 19 回研究大会は 2025 年 5 月 31 日から 6 月 1 日にかけて、現状では実開催とオンライン併用（部分的）による大会として開催される予定になりました。初日は明治大学生田キャンパス、二日目は明治大学黒川農場の施設を利用した開催となる見込みです。

なお、大会の詳細に関しましては 2025 年 3 月以降、参加の手続きは 4 月以降に改めてお知らせします。オンライン併用では「Zoom」という Web 会議用のアプリケーションソフトを使用する予定です。（オンライン参加を希望される方は安定した通信環境のご準備をお願いいたします）。

◆日程（案）※前回大会を参考とした仮案です。

◇1 日目（5 月 31 日）仮設定：詳細は後日調整

10：00～11：40	12：00～12：45	13：30～15：30	15：30～15：45	15：45～17：30
ワークショップ A	総会	シンポジウム 登壇者報告	休憩	シンポジウム 全体討論

◇2 日目（6 月 1 日）仮設定：詳細は後日調整

8：30～9：00	9：15～12：30	12：30～13：15	13：00～15：15	15：30～17：10
フィールドガイド	一般研究発表	休憩	里山フォーラム	ワークショップ B
		12：30～13：00		
		黒川農場生態圏案内		

## 2. 大会初日シンポジウムについて

### ◆ テーマ

#### 人と自然の未来 —里山からの展望、失意と希望の30年をこえて—

### ◆ 大会シンポジウム企画趣旨

20世紀自然破壊が深刻化するなか、人と自然の関係をめぐる言説をリードしていた英語圏の議論では、原生自然や野生生物の価値をどのように保護するのかという問題意識が強く見られた。日本では『環境倫理学のすすめ』（加藤尚武 1991）の出版を皮切りに、海外の議論をフォローしつつ、二次的自然環境の意義については西洋の後追いではない研究も進められてきた。こうした文脈で、一つの象徴的概念として注目されてきたのが里山である。

細かな議論はさまざまあるが、1990年代初頭までは雑木林の類義語のように見なされていた里山は、2000年前後に概念の拡張とも呼べる広がりを見せ、里海や里川、里沼などの派生語も登場するようになった。国際的にも生物多様性条約会議（COP10,2010年、名古屋）にて「SATOYAMA イニシアティブ」が推進され、「社会生態学的生産ランドスケープ（SEPLS）」として世界的に展開されてきた。

こうした流れの中で、里山の研究者も、里山保全に携わる生活者や活動家も、里山を取り上げるマスメディアも、さらには小中学校等の教育現場でも、里山に対してある種の希望と可能性を予感していたように思われる。すなわち里山は、自然の複雑さや不思議さを学び感じる教育の場となること、自然に対する感受性といった環境徳を養う場になること、そうした徳を身に着けた市民が里山の保全に取り組むことへの淡い期待があったと言ってよいだろう。

しかし里山を巡る現在の状況は、そうした期待に十分には応えているとはいえないものがある。かつての里山を維持してきた農林業や地域生活との関係性が失われ、里山地域の空洞化が進む一方で、里山の保全活動に関わろうとする担い手、人材の育成や継承が進んでいない。里山の外に目を向けても、気候変動などの環境問題への取り組みはいずれも十分とはいえない。

現状に対する危機意識、そこから生じる失意と憤りから、若い世代を中心に一部にはより過激な抗議活動に走るものもいれば、諦めから無関心になるものもある。一時的に高まりを見せたメタバースや反出生主義への関心も、環境問題に対するニヒリズムが関わっていると解釈することもできるだろう。

本シンポジウムでは以上の現状整理をふまえた、あるいはこの整理そのものを批判的に分析する四名の登壇者に話題を提供していただき、会場の参加者とともに、里山を足がかりにしつつもそこに限定することなく、広く人間と自然の関係に希望を見出すための手がかりを改めて探ることを目指したい。

### ◆ 登壇者

- |     |  |
|-----|--|
| 報告1 | 井上浩朗（武蔵野大学 非常勤講師／環境倫理学）                                      |
| 報告2 | 上柿崇英（大阪公立大学現代システム科学研究科 准教授／環境哲学・現代人間学）                       |
| 報告3 | 松村正治（NPO 法人よこはま里山研究所（NORA） 理事長／環境社会学）                        |
| 報告4 | 吉永明弘（法政大学人間環境学部人間環境学科 教授／環境倫理学）                              |
| 司会  | 熊坂元大（徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授／環境倫理学）<br>竹中信介（道徳科学研究所 研究員／比較文明学） |

参考：<https://www.env.go.jp/nature/satoyama/initiative.html>  
<https://satoyama-initiative.org/ja/>

### 3. 大会二日目、里山フォーラムについて

#### ◆ フィールドガイド

川崎市麻生区黒川地区は、環境省の生物多様性保全上重要な里地里山、神奈川県の里地里山保全等地域、川崎市の緑と農の3大拠点に位置づけられている、都心から近い里山ランドスケープ（里地里山）です。黒川駅から黒川農場まで、昔からの道を歩きながら、谷戸の暮らしについて解説します。

#### ◆ 黒川農場自然生態園案内

明治大学黒川農場は、コンセプトの一つ自然共生に里山との共生を謳っている面積12haの50%が里山（林）の大学農場です。里山ランドスケープ（里地里山）としては広くないのですが、場内の小さい谷戸一つを自然生態園として丘陵地の自然の成り立ちが理解できるように管理しています。工事の際の自然保護上の課題や現在のナラ枯れ等の対策について現場で説明する時間を設けます。

#### ◆ 里山フォーラム

黒川農場が位置する多摩・三浦丘陵群は里山保全活動が活発に行われてきた地域です。保全上重要な里山の研究者、自然を生かした里山公園（公有地）の指定管理者、里山の市民の森（民有地）の管理者、自治体内の市民の活動のネットワーク、黒川農場における実務と里山講座などについて、楽しさ、稼ぎ、制約などについて話題提供していただき、里山と市民の関わりの将来について考えます。

### 4. 「一般研究発表」の申し込みについて

2025年第19回大会に向けて、一般研究発表を募集いたします。またワークショップ企画をお考えのグループがありましたら、別途、事務局までご一報ください。

**研究発表申し込みの受付期間は2025年2月1日から2月28日（郵送の場合、25日必着）です。**

発表は1人1回とさせていただきます。2人以上の共同発表の場合も原則として、1回の発表とカウントいたします。ただし、時間枠の延長・拡大は可能です。必要がある際は、事務局までご相談下さい。

なお、発表は大会実行委員会での承認をもって決定いたしますので、**申し込んだ段階では発表と決まったわけではありません。**発表が承認された後、改めて確認のお知らせをいたします。

大会プログラムに掲載する原稿の詳細についても、そのさいに改めてお知らせいたします。発表のお申し込みは、別紙の「**2025年 第19回大会研究発表申込書**」をご活用いただき、必要事項ご記入の上、以下の宛先までご連絡下さい。

※発表時間は35分（報告25分+質疑10分）です。

〔お申込み宛先〕

事務局：〒〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 熊坂元大研究室

電話：088-656-7150（直通）

E-mail: [contact@synthetic-anthropology.org](mailto:contact@synthetic-anthropology.org)

**※可能な限り、メールでのお申し込みをお願いします。申し込みに関する必要事項を本文に直接ご記入頂いても構いません。**

## 5. 会費の納入について

「一般研究発表」で報告を希望される方は、申請の際、会費の完納が前提となりますので、過年度分も含め、会費の納入には十分ご注意ください。

\*同じく今年度会費が未納の方は、早めの納入手続きをお願い申し上げます。

尚、郵便局に口座をお持ちの方は、口座間の電信振替により、ATM 上の操作で学会の振替口座に会費を払い込むことが可能です。その場合、学会の口座情報が必要になりますので、今一度下記に確認、記載します。

振込みには各種方法がありますが、ゆうちょ銀行のATM で払込取扱票をご利用の場合は、窓口備え付けの青の払込取扱票をご利用ください。

### 記

加入者名：総合人間学会（ソウゴウニンゲンガクカイ）  
口座記号番号：00180-2-579072

ATM の操作、振込用紙など、手続きの詳細は、窓口となる郵便局のスタッフにお尋ねください。  
会費納入の段、よろしく申し上げます。

## II. 理事会・運営委員会報告

### 2024 年度 第 2 回 運営委員会（理事参加歓迎、議事メモ）

日時 2024 年 11 月 4 日（月・祝） 15 時～17 時 15 分  
場所 Zoom

#### 報告・審議事項

##### 1. 事務局

- ・ 8 月退会者 2 名、9 月入退会なし。
- ・ 前回大会後に顧問をお引き受けいただいた山極寿一氏は、所属先の総合地球環境学研究所の任期が 2025 年 3 月 31 日までとなっており、学会顧問も同研究所を介して依頼しているため、顧問任期は 2025 年 3 月 31 日までとし、更新については任期の終わりが近くなったときに、改めて依頼することとなった。

##### 2. 各種委員会

###### 1) 編集委員会（宮盛邦友 委員長）

- ・ 投稿論文の査読を査読者二名に依頼しており、11 月中に第一回審査の結果が出る予定である。今号が 19 巻だが、次号 20 巻から年二回発行に踏み切る方向で進めている。20 巻第 1 号、20 号第 2 号は、それぞれ 5 月と 11 月発行を予定している。大会記録を収録する時期を、大会から間が空か

ないようにしたい。

- ・ 投稿論文については、不掲載になった場合に不満を抱かれることもあった。これまでは理事会や運営委員会が不掲載になった場合の苦情に対応することもあった。1号あたり2回、2号分(計4回)のやりとりをすることで、総合人間学とは何かという前提の違いから生じる認識のずれの違いの解消や、会員の投稿・掲載機会の拡大にもつながることが期待される。
- ・ 11月号は大会記録および投稿論文を掲載し、5月号は投稿論文のみとなれば紙幅に余裕ができることが予想されるので、その分を何らかの企画に回したい。総合人間学へのアプローチや総合人間学とは何かといった、KW委員会で議論してきた事柄について本格的に書きたいという方による寄稿や、逝去された名誉会長の追悼文の掲載など、総合人間学とは何かについての特集・連載とすることも考えられる。
- ・ これら作業への対応のため、編集委員の増員を希望する。
- ・ J-Stageについては河野理事とアドラー理事に作業していただいているが、実務作業への謝金が必要である。特定の先生に負担が集中しているなかで、どういう基準でどのように謝金を支払えばよいか、意見聴取が必要である。いずれにせよ支出が必要であるほか、東方先生にも幹事に就任していただきJ-Stageに関わってもらう予定なので、こちらも謝金を出す必要がある。
  - ・ 上記について審議され、承認された。
- ・ 論文ではない、もう少し砕けた、研究者ではない市民にも開かれた原稿としてエッセイというカテゴリーが以前あったが、研究ノートも分野によっては査読を受けて掲載されるものという認識があり、エッセイを研究ノートとして出すことには違和感もある。現時点ではオンライン・書籍版ともに、市民に開かれたジャーナルという形態は考えていない。

## 2) KW委員会(長谷場健 委員長)

- ・ 第二期KW原稿募集に対して3件の応募があった。別途、委員会選出によるKWおよびその執筆依頼者の選定を進めている。

## 3) 出版企画委員会(Googleフォームを通じて蔭木理事から報告があったものを事務局が代読)

- ・ これまでの流れの説明があり、以下の通り、その後の予定が報告された。
  - ・ 12月15日に原稿の一次締め切り、12月中旬から下旬にかけて、出版企画の具体的内容について運営委員会で報告。同時期に第2回編集会議、1月入稿、2月初校、3月再校、4月末付けで発行、5月配送を目指す。

## 4) 研究談話委員会(古沢広祐 会長)

- ・ 理事会員の近刊の複数の書籍について、紹介の機会とともに、相互に合評しあうような拡大合評会企画が提案された。

## 5) 広報委員会(太田 明 委員長)

- ・ 大会ワークショップの報告、論文化の動きがやや遅れており、現在準備中である。

## 6) 若手委員会(本多俊貴 委員長)

- ・ 大会ワークショップの論文化の動きがやや遅れており、現在執筆中である。次年度について若手会員にアプローチし、本多委員長単独ではなくグループとして取り組むことになっている。

## 7) 名誉会長・追悼論集特別企画準備会(古沢広祐 会長)

- ・ 準備中であるとの報告があった。

## 8) 学会運営・会則等検討委員会(黒須三恵 委員長)

- ・ 顧問を役員から除く、名誉会長に関する条文の削除、役員に研究談話委員会と広報委員会の委員長の追加が提案された。
- ・ 学会活性化・若手会員の研究成果発表支援、選挙制度について引き続き検討の報告があった。
  - ・ 研究大会実行委員会の位置づけについて、他の委員会と同じように位置づけるのか議論がなされた。これまではその都度、自薦・他薦によって担当者が決まったこと、若手が自由に計画・準備が出来るよう、ここ数年は準備会という名称で行ってきたことが確認された。
  - ・ 研究談話会を若手の萌芽的発表の場として活用してはどうかとの提案があった。同会はこれまで刊行された会員の書籍の紹介などの場として機能してきたこと、若手には大会発表・論文投稿を踏まえてから談話会へと進んでもらうほうが望ましいのではとの意見も出された。また、研究談話委員会は、もともと発表希望者に門戸を開いていることが確認された。

### 3. 特別企画について

- ・ 研究談話委員会からの報告として提案のあった拡大合評会のほか、『総合人間学18号』の合評会や、そこで取り上げられた「近代的『知』」というテーマをさらに広げた企画、脱成長の再考、20周年への準備企画としての「学の総合とは」といった案も提示された。
- ・ 合評会がかつては編集委員会、その後は出版企画委員会と研究談話委員会の協力で開催されたが最近途絶えている。会長による特別企画として扱うことになれば、今後の合評会の位置づけが混乱するのではないかと指摘があり、本学会によける合評会の位置づけを検討すべきではないかとの意見が出された。また、今回は合評会としてではなく、単に特別企画として実施するほうが好ましいとの意見も出された。
- ・ スケジュール調整の難しさも懸念された。

### 4. 次回大会について

- ・ 倉本理事から明治大学黒川農場を開催地とする提案があった。
- ・ 当初開催地の候補とされていた徳島大学での開催が可能かどうか、11月中旬まで判断がつかないため、両案を平行して検討することとなった。
- ・ 大会テーマとして、反出生主義の提案があった。
- ・ 実務的な点について、いくつかの提案や確認の要請があった。

### 5. その他

- ・ メールが学会員全員に確実に届かないことと、アドレス更新作業が煩雑であるという問題点を改善するため、学会員向けメース配信システムを、さくらインターネットのメーリングリストシステムから名簿システムに切り替えることが提案され、承認された。
- ・ 事務局に協力していただいている若手会員の慰労と学会内の交流促進のために、忘年会などを企画してはどうかとの提案があり、好意的な反応があった。
- ・ 役員構成がHP担当者に伝わっておらず、HP上で未定とされている欄がある。事務局長を通じて連絡してほしいとの要望があった。

## 2024年度 第3回 運営委員会 (理事参加歓迎、議事メモ)

日時 2024年12月4日(月・祝) 15時～17時15分  
場所 Zoom

### 報告・審議事項

## 1. 事務局

- ・ 10月入会者1名、11月入退会なし、12月入会者1名。

## 2. 各種委員会

### 1) 編集委員会 (宮盛邦友 委員長)

- ・ 11月に編集委員会を開催し、一次査読の結果を確定させた。論文5本、研究ノート1本の投稿があり、うち論文1本は不掲載となった。1月10日を締切に再査読を行う。投稿数が多くなく、質の低下も懸念されており、掲載されるのは1-2本になる可能性もあるが、査読の基準を下げてしまうと、学会の水準低下につながりかねず悩ましい。
- ・ 第20巻からは年2回発行を予定しているが、大会企画を載せる第1号とは別の第2号では高い水準の論文を掲載したい。
- ・ J-Stageへの登録作業をアドラー理事に依頼。謝金の額について意見を集めている。アドラー理事からは謝金＝会費免除として依頼されたとの説明を受けている。
  - ・ 会計管理の点で、便宜的に行われてきた謝金と会費の相殺は好ましくないとの指摘も出た。

### 2) 出版企画委員会 (蔭木達也 委員長)

- ・ 蔭木理事が委員長となることを確認した。本会当日13時から15時に出版会議を実施したとの報告があり、すでに提出された原稿があること、その他の未提出原稿も1月中旬までには脱稿予定である旨が報告された。

### 3) 若手委員会 (本多俊貴 委員長)

- ・ 前回大会の若手ワークショップの成果を論文にしており、二月末に完成予定であるとの報告がなされた。
- ・ 若手企画の立案・実施が現状では委員長のワンオペ状態であり、若手委員会の組織再編を検討しているとの報告があり、現委員長以外に4名が委員候補として、1名がオブザーバーとして挙げられた。次回大会のワークショップもこのメンバーで行う予定であるとの説明があった。

### 4) 名誉会長・追悼論集特別企画準備会

- ・ 宮盛理事から、総合人間学のこれまでの継承とこれからの発展を念頭に置いた書籍の出版案が提示された。第一部が小林直樹の人間学、第二部が小原秀雄の総合人間学、第三部がかつて関係されていた柴田義松氏を含む方々の総合人間学をテーマとした論集とする企画案である。400字30枚を目安とした研究ノート形式の論稿を会員から募ることで、学会としての結びつきを強めることも期待される。
- ・ 重要な企画案として受けとめるとともに、出版事情も考慮するなど検討を継続していくことになった。

### 5) 学会運営・会則等検討委員会 (黒須三恵 委員長)

- ・ 現行会則と対比させて試案が紹介された。

## 3. 次回大会について

- ・ 熊坂事務局長と倉本理事から、開催候補地に関する情報更新と実行委員関係者による12月15日の打ち合わせをふまえて、初日に明治大学生田キャンパスで、里山を念頭に置いた人間と自然の関係についてのシンポジウムが、二日目に明治大学黒川農場で里山フォーラムを開催するという案が示された。
- ・ 変則的な開催となることで、会場までの移動や設営について検討を進める必要があることが確認

された。

- ・ シンポジウム関係者が人文・社会科学系の研究者に偏っているので、理系の視点があると良いのではないかとの意見が出た。

### Ⅲ. その他、ご案内

#### ・ <研究談話会のご案内>

テーマ：『共生論 実存から平和へ』をめぐって

開催日：1/27（月）オンライン開催、16時～18時予定

（内容）

砂子岳彦理事、福田鈴子理事が共著で刊行されたご著書の紹介をかねて、オンライン研究談話会を開催します。 福田鈴子著・砂子岳彦著『共生論 実存から平和へ』学文社、2024年

<https://www.gakubunsha.com/book/b643101.html>

---

1・2章で、ウクライナ侵攻など、戦争から見えてくる意味を鍵語である「内属的共同性」として汲み取り、V.E.フランクルのホロコースト体験と思想を導きとして内属的共同性を浮き彫りにし、3章でアーレントやレヴィナスの思想から内属的共同性から広がる融合的認知と平和教育を示唆する。4章で、人間とは何かについて、人間構造によって描像し、5章で教養としての共生論について考察。6章で実存から共生への道筋を示し、7章で共生から平和への道筋について異文化理解を通して示す。8章で、〈わたし〉と人類の平和をつなぎ、個人と人類の幸せを同時に満たす平和への道しるべを提案する。

---

書籍の紹介とともに、共著ですのでお二人からそれぞれのテーマにて、各30分程度のご報告を頂きます。その後に対談形式も交えて、質疑応答や関連内容での質疑とコメントなど、全体討論、自由に談話形式にて開催する予定です。

以下、参加申し込み下さい。開催前日頃にzoomアクセス先を案内します。

（参加申し込み、以下に記入）：<https://forms.gle/zRxcpHQoCDuVipzSA>

問い合わせ：研究談話委員会委員長、木村武史・研究談話会のお知らせ

- ・ 学会のHPにて、随時、情報を掲載しておりますので、適宜ご閲覧ください。

過去のニュースレターも、学会HPの会員限定から閲覧できます。

[http://synthetic-anthropology.org/?page\\_id=2305](http://synthetic-anthropology.org/?page_id=2305)

- ・ J-STAGE、総合人間学会の掲載場所、は以下になります。（検索でもアクセス可）

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/synanthro/-char/ja>



## IV. 事務局からのお知らせ

- 1) Newsletter のメール配信について： Newsletter は、41号から郵送事務と経費削減のために、電子メール登録のある会員の皆さまには、電子メールによる配信をさせていただくこととなりました。 Newsletter の発行にあわせて、学会ホームページ (HP) に、Newsletter が配信された旨告知し、会員の皆さまに電子メールでの着信をご確認いただくことといたしました。お使いのメールによって、迷惑メール等へ振り分けされるケースがありますので、見落としされませんようご注意ください。学会からのメール配信で不着信につきましては、学会事務局までご一報ください。
- 2) 会費納入状況などの確認は、学会の HP の「会員限定」のところにある、「会員用マイページ」へのアクセスで、各個人限定の閲覧にてご確認ください。  
会員限定のマイページにアクセスする際は、年誌とともにお送りしている請求書に記載されている ID とパスワードをご利用ください。基本的に事務局にて慎重に管理していますので、メールアドレスや連絡先の変更などは、事務局にご一報ください。
- 3) 会員の皆さまへの会費納入の案内は、書籍版・機関誌の発送時にて、「宛名ラベル」での会費告知と振替用紙の同封の送付の際にて、行わせて頂くこととなりました。ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。
- 4) 学会誌・書籍 (普及ブック) 版のご活用について、学会活動の貴重な成果が掲載されておりますので、ゼミ演習等でのテキスト利用など、ぜひご活用と、ご協力頂きますようお願い申し上げます。
- 5) 年度内の今後の運営委員会・理事会の日程 (現時点での予定) は以下の通りです。

### 2024年度、理事会・運営委員会の予定

(土・日、休み時期は平日、適宜日程調整、zoom 会議)

第4回 2025年 2月 中旬

理事会・運営委員会

第5回 2025年 3月末 or 4月中旬

運営委員会 (理事参加歓迎)

(次年度大会の準備状況次第にて調整)

第6回 2025年 5月 中～下旬

2020年度からオンライン会議による開催を踏まえて、従来の運営委員会を理事の自由参加として運営委員会・理事会として行ってきました (2021・21年度)。2023年度も基本的には同様なのですが、会議名を明示しました。運営委員会 (理事の参加歓迎) ということで、会議開催は理事メール宛として理事の積極的参加を期待してご案内いたします。

## 学会誌販売のご案内

総合人間学会誌『総合人間学』の以下ラインナップを、学会の在庫分にかぎり

1冊 **特価1000円**（送料別）にて販売いたします！

購入ご希望の方は、注文冊数、送付先を学会事務局までメールまたはfaxにてお送りください。

第13号 『科学技術時代に総合知を考える——文系学問不要論に抗して』  
第12号 『〈農〉の総合人間学』  
第11号 『人間にとって学び・教育とは何か——未曾有の教育危機に直面して』  
第10号 『コミュニティと共生——もうひとつのグローバル化を拓く』  
第9号 『〈居場所〉の喪失、これからの〈居場所〉——成長・競争社会とその先へ』  
第8号 『人間関係の新しい紡ぎ方——3・11を受け止めて』  
第7号 『3・11を総合人間学から考える』

【本件連絡先：学会事務局】

・Eメールアドレス [contact@synthetic-anthropology.org](mailto:contact@synthetic-anthropology.org)

（事務連絡）

### ＜＜ 学会費の納入お願い ＞＞

\*総合人間学会・年会費、昨年度（2024年度）の振り込みがまだの方は、今年度と合わせてお振り込み下さい。学会誌（書籍版）送付時に振り込み用紙を同封、見当たらない方は郵便局の振込用紙にてお願いします。（過去年度未納・滞納の会員の方は、早急にご対応のほど宜しくお願い申し上げます）

● 会計年度としては、4月からは2025年度となりますので、2025年度の学会費につきまして、早めの納入をお願いいたします。昨年6月研究大会前に、学会誌『総合人間学18』の刊行・送付をしていますので、同封の振込用紙をご利用ください。

学会費：一般：7,000円・減額：4,000円（減額は申請者のみ：学生や非常勤職などへの配慮）

・加入者名：総合人間学会 口座記号番号：00180-2-579072

① 郵便局そなえつけの振替用紙、② ATM 送金、③ 電子振込み、に対応しています。

◆ひろく学会員の門戸を開いておりますので、ご関心の方々にぜひ入会をお勧めください。

学会HP(入会案内)参照：[http://synthetic-anthropology.org/?page\\_id=57](http://synthetic-anthropology.org/?page_id=57)